



# あすもりサポーター通信

## 森の手入れの大切さ！

今年は国連の定める国際森林年でした。各地でいろいろな催しがありましたが、11月18日は道新ホールいっばいでC.W.ニコル氏の講演会や23日には札幌エルプラザで「北海道スタイルの森づくり」というフォーラムにも参加する機会がありました。

2つの講演会で共通していたことは、日本、北海道の森林はもっと手入れが必要だということです。健全な森にしていかなければ・・・有用な森林資源も価値がなくなったり荒廃してしまっている現実があるということ映像を使って知ることができました。でも、手をかければよみがえるという希望に満ちたおはなしも伺えずばらしい音楽とともに実感できました。私たちの植樹は始めの一步であり長い森のサイクルの中では残っていないかもしれないかもしれませんが、それでも根踏みをしたり下草を刈ったりして年々成長していく苗木をみる楽しみもあります。



Fゾーンの中心付近で咲くカタクリ



Fゾーンの中央付近から、神居尻岳を望む

今、植樹している当別のAゾーンは来年24年度で植樹を完了します。今年度の補植と枝打ち体験に参加されたみなさんには新しいFゾーンの土地も見ていただきました。どんな森に育っていくか想像してみてください。といってもなかなかむずかしいですね。Fゾーンはカタクリの群生地ということで来年、春の根踏みの時に見れるといいですね。

5月26日(土)を植樹日に予定しておりますので、根踏みは10日前くらいまでに実施したいと考えております。また、ご参加くださいね。

基金運営委員 井上久子



## 第2回 北海道の森づくり交流会

北海道の森は未来につなぐ大切な「宝物」。この宝物は手をかけ手入れをしてあげることで、その魅力はよりいっそう豊かなものになっていくのです。森に入り、木々に触れることで癒されたことをきっかけに、森づくりを始められたという、浜田久美子さんの講演を聴いてみませんか？ひとりひとりが森のために出来ることを一緒に考えてみませんか？

### プログラム

第一部 (札幌会場よりTV会議中継)

### 特別講演 浜田久美子氏

- ・2011年度 活動助成団体 活動報告
- ・2012年度 コープ未来の森づくり基金 助成贈呈式

第二部

### 地区別分散会にて交流会

～地域の森をいっしょに元気にしませんか？～



日時：2012年1月28日(土) 13:00～16:00

参加料：無料

会場：全道TV会議での一斉開催

- 札幌会場 コープさっぽろ北12条店2階(札幌市北区北12条西1丁目)
- 旭川会場 コープさっぽろ旭川地区本部2階(旭川市北門町14-2144-129)
- 函館会場 コープさっぽろ山の手店2階(函館市山の手2-18-15)
- 苫小牧会場 コープさっぽろ苫小牧地区本部(苫小牧市日吉町3丁目4-4)
- 北見会場 コープさっぽろ北見地区本部(北見市端野町3区197)
- 釧路会場 コープさっぽろ貝塚店会議室(釧路市貝塚3-2-28)
- 帯広会場 コープさっぽろ帯広地区本部(帯広市西18条南1丁目4-1)

#### ● 浜田久美子氏のご紹介 ●

作家。東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。精神科カウンセラーを経て、木の持つ力に触れたことから森林をテーマとした著述業に転身。森林や木と自分たちの暮らしが繋がっていることが、人にとっては安定を、森にとっては安泰をもたらすという視点から活動。

主な著書に『森をつくる人々』『木の家三昧』『森のゆくえ-林業と森の豊かさの共存』(以上、コモンズ)、『森がくれる心とからだ』『スエーデン 森と暮らす』(以上、全国林業改良普及協会)など

### お申し込み方法

参加ご希望の方は、「北海道の森づくり交流会参加希望」と記載し、下記内容をはがき、FAX、メールにてご応募ください。

①参加者氏名(全員分) ②電話番号 ③参加会場 ④団体名(団体での参加の場合のみ)

■締切 2012年1月17日(火) ※頂いた個人情報は、交流会の参加集約にのみ使用します。

〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10番1号 コープさっぽろ基金事務局

TEL 011-671-5651 受付時間 平日 10:00～17:00 FAX 011-671-5743 メールアドレス csap.k.asumori@todock.jp



## C.W. ニコル講演会報告



11月18日に実施したC.W.ニコル講演会には650名の参加をいただきました。ニコルさんは、「心に木を植えよう」と題し、「森は水の母親」「森は人の心を豊かにする」「北海道のみんなが美しい森を作る心になったらすばらしい」など、自らの長野県黒姫での活動を映像を交えて紹介しました。

幽霊森を買って草を刈り、木を間引きし、川を掃除して、木を手入れして、10%の光が通るようにすると、風も通り、地面が元気になり、木も育つ。花が咲き、昆虫が集まる。鳥が来て種を落として、サイクルが廻る。絶滅危惧種も29種類、鳥は100種、熊も5頭。森は水の母。森の中にいると、美しい、面白い、楽しい、不思議がいっぱい。森が回復すると心も回復すると……。

森は放置しないで、間伐して地面に光を通し、整備を怠らないことが大切とあらためて考えさせられ、森の価値と魅力が実感できました。

## あすもり基金 助成団体紹介 (2011年度高額助成)

### もり NPO 法人 森林あそびサポートセンター 活動拠点 / 札幌市

NPO法人森林(もり)遊びサポートセンターは、登山を愛し北海道の森を愛し、森に親しむ同志10数人が集って1991年に発足した「札幌森友会」がはじまりです。2003年5月15日には、森林遊びの輪を広めながら、自然環境保全の推進を図ることを目的にNPO法人となりました。

同会の活動の3本柱は「森林ボランティア・熱血登山・癒しの旅」。2011年の活動例では樽前山や本俱登山、朝日岳などへの登山、自然観察、森づくり作業があり、3つの柱がバランスよく実施されています。20年間の活動回数は1,430回、参加者数は延べ36,150人。札幌市内の小学校との連携事業にも積極的に取り組んでいます。子どもたちが森と緑に親しみながら木の名前が覚えられるようにと進めている「子ども樹木博士の認定活動」や学校林の手入れなどを一緒に行っています。ホームページ <http://www.moriasobi.jp>



刈払い機講習会

## 北海道のひぐま情報

2011年10月、札幌市にある藻岩山山麓の住宅街に、親子連れのヒグマが出没して市民を驚かせました。北海道自然環境課でも、全道でヒグマの目撃件数が増えたと注意を呼びかけました。なぜ目撃件数が増え、市街地に出没したのか、はっきりした原因はわかりません。札幌などの都市部は奥山に入り込むように住宅地が広がっていますので、ヒグマとの接触が回避できない現状にあります。

ヒグマはむやみに人を襲う動物ではありません。人間の側が、山に入る時は出会わないように、山と接している住宅地では生ゴミ管理を徹底するなど呼び寄せない工夫を凝らすことが大切です。ヒグマのことを知り、その習性にあわせて対策を考えるために役立つ情報をご紹介します。



### ●渡島のひぐま

<http://www.oshima.pref.hokkaido.jp/os-ksktu/kuma/>

「人とヒグマの共存」をめざして、渡島総合振興局がヒグマ情報を発信しています。子ども向けの電子紙しばい「森とヒグマのお話し」、大人向けの「クマとの調和した暮らし」をダウンロードして読むことができます。

### ●ヒグマとのトラブルを防ぐ対処法

<http://www.shiretoko.or.jp/bear/>

世界遺産の知床半島はヒグマが密集しています。公益財団法人知床財団のホームページでは、ヒグマと出会わないための心がけ、ヒグマと出会った時の対策を紹介。小冊子「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」(1冊525円)を取り寄せることもできます。